



ひとつぶの種

杭州日本人学校
学校便り第156号
令和4年3月号

「笑門来福」 ~いつまでも「笑顔あふれる学校」で~

例年よりも寒さの厳しかった冬も終わりに近づき、ようやく春の訪れを感じる頃となりました。学校では学年末を迎え、総まとめの時期となりました。小学部6年生は卒業に向け、小学校課程のまとめに全力を注いでいます。そして、他の学年の児童生徒も進級に向け、各学年のまとめをしっかり行い、一人一人が確実にステップアップしていけるように取り組んでいます。

さて、私は、杭州日本人学校に赴任以来、杭州っ子たちが「笑顔で登校 笑顔で下校」できて、杭州っ子たちの「笑顔あふれる学校」を目指して学校運営に取り組んでまいりました。キーワードはまさに「笑顔」です。

人間は生まれながらにして笑顔を見せます。これは「新生児微笑」といい、「笑顔を見せることで周りがさらに優しく接してくれる」という赤ちゃんの本能的な自己防衛手段なのだそうです。笑顔については医学的にも研究が進み、「脳を活性化し、やる気や活力が生まれる」「ストレスを緩和するはたらきがある」「免疫力を高めるはたらきがある」等のような効能が報告されています。また、「笑いは伝染する」と言われる通り、笑顔でいることによって周りの人たちも笑顔になるという、幸せの連鎖が起こります。



杭州っ子が登校したとき、笑顔で「おはようございます」と挨拶をしてくれると、私も心から幸せを感じ、たくさんのエネルギーをもらっています。今日も充実した1日を過ごしてほしいと願わずにはいません。それでも、子どもの喜怒哀楽は多様に変化し、些細なことでも、怒ったり悲しんだり泣いたりするものです。友達とケンカをすることもあってしょう。叱られて落ち込んでしまうこともあるでしょう。そんなときも、自己肯定感と折れない心を働かせて、笑顔を取り戻してほしいものです。自力で笑顔に戻れないときは、友達の力や大人の力も必要です。周囲の笑顔がその子の笑顔につながります。

大事なことは、「楽しいから笑顔になる」のではなく、「笑顔でいるから楽しくなる」ということだと思います。『笑う門には福来たる』『笑門来福』という言葉も、「笑顔でいるから楽しく幸せになる」ということを表しています。杭州っ子みんなが、いつもにこやかに笑って過ごせば、学校全体も自然と幸せに包まれることでしょう。杭州日本人学校は、いつまでも「笑顔あふれる学校」であってほしいと願っています。



2月に入り、卒業証書授与式と卒園式の練習が始まりました。今年度は、小学部6年生2名が卒業を、幼稚部年長の5名が卒園を迎え、それぞれの進路を歩んでいきます。

卒業証書授与式に向けては、朝の時間や杭州タイムを使って練習に取り組んでいます。1年生から8年生までの小中学部全員が一体となって創り上げていく卒業証書授与式は、本校にとって最も重要かつ大切な行事です。「贈る言葉」に感謝の気持ちを込めて練習している「ありがとうございます！」という元気な声が、教室から校長室まで響いてきます。

本校の校歌に「風に乗ってやってきた ひとつぶの種のように この大地に芽吹き 枝いっぱい 葉を繁らせよう」という歌詞があります。2名の卒業生と5名の卒園児は、杭州日本人学校で一生懸命に学び、運動し、仲間と育んだ友情の絆を胸にそれぞれの大地でさらに根を張り、幹を太らせ、青々とした葉を枝いっぱい繁らせてくれることでしょう。



最後になりましたが、保護者の皆様には、この1年間、本校の教育活動に深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。